

# 河川事業

たけしがわ

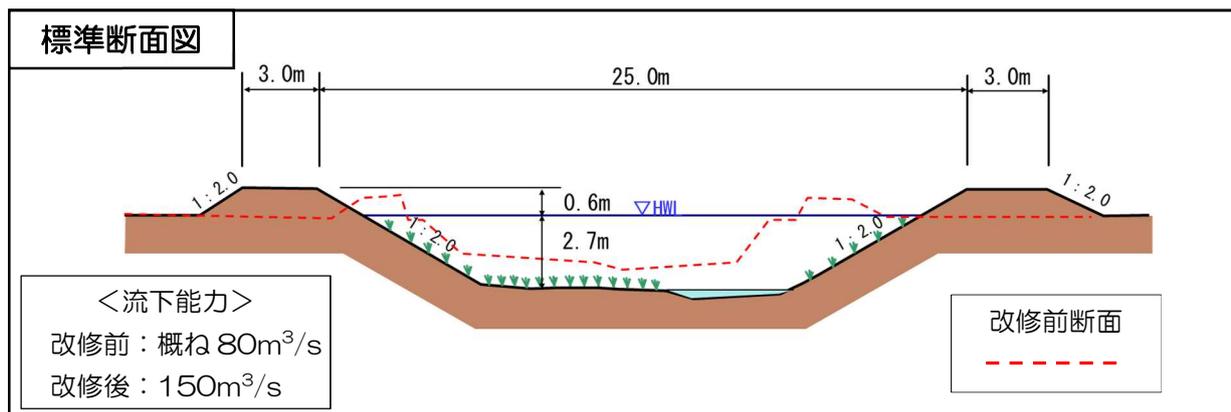
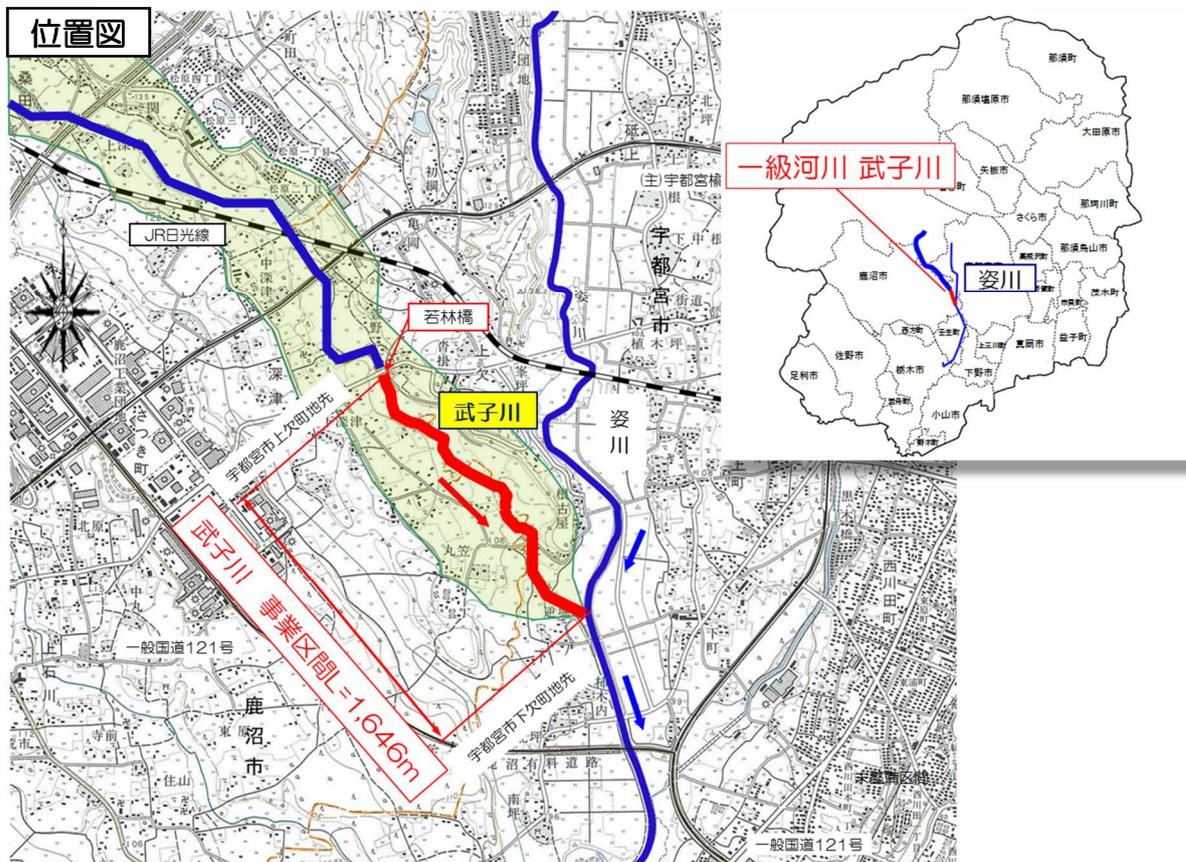
## 一級河川 武子川 宇都宮工区

(平成27(2015)年4月 完成)

### 1 事業概要

武子川は、日光市猪倉地内に源を発し、鹿沼市東部の農地を経て、鹿沼市と宇都宮市の行政境を流下し、宇都宮市下欠町地先で姿川に合流する一級河川である。

河道断面が狭小であったため、台風や豪雨時には洪水により氾濫し、家屋や農地等の浸水被害が生じていた。このため、栃木県では、氾濫防止及び浸水被害の軽減を図ることを目的として、平成10年度から平成27年度までの18ヶ年で「安全な川づくり事業」による河川整備を実施した。



- ◆ 事業名 : 安全な川づくり事業
- ◆ 事業主体 : 栃木県
- ◆ 事業箇所 : 一級河川 武子川  
宇都宮市下<sup>しもかけまち</sup>欠町地先～上<sup>かみかけまち</sup>欠町地先
- ◆ 事業延長 : L=1,646m
- ◆ 総事業費 : 約12.9億円
- ◆ 事業期間 : 平成10年度～平成27年度

## 2 事業の目的・必要性

### 浸水被害の軽減

豪雨時には流下能力の不足により宅地や道路などに浸水被害が生じていた。このため、「浸水被害の軽減」を目的に河川整備を実施し、河川断面の拡大を図った。

#### <過去の出水状況>

平成 10 年出水状況（武子橋上流付近）



平成 18 年出水状況（若林橋下流付近）



## 3 事業の整備効果等

### 計画規模の洪水に対する浸水被害の解消

河川断面の拡大により流下能力が向上し、計画規模である平成 10 年 8 月降雨と同規模の洪水を安全に流下させることが可能となった。平成 27 年関東・東北豪雨及び令和元年東日本台風時においても、浸水被害はなかった。

#### <河川断面の拡大>



<浸水実績図>



その他洪水実績

| 洪水実績             | 発生年月日       | 浸水面積 (ha) | 家屋浸水 (戸) |
|------------------|-------------|-----------|----------|
| 平成 14 年 台風第 6 号  | H14.7.9~11  | 3.4       | 1        |
| 平成 16 年 台風第 22 号 | H16.10.8~9  | 2.2       | 1        |
| 平成 27 年 関東・東北豪雨  | H27.9.9~10  | 0         | 0        |
| 令和元年 東日本台風       | R元.10.11~13 | 0         | 0        |

## 4 地元の声・ヒアリング結果

武子川の河川改修事業の効果について、地域自治会や水防団体にヒアリング調査を実施した。(ヒアリング対象：沿川3自治会・1水防団(消防団))

### ① 河川改修による安全面の変化について

- 平成27年関東・東北豪雨の際、未整備区間の上流側では浸水被害が発生したが、整備区間の被害はなかった。(水防団)
- 改修前は湖のようになったが、現在は氾濫もなく、地元の安心感は増した。(自治会)
- 河川沿川の農家は田畑の浸水被害もなくなり改修事業に感謝している。(自治会)

### ② 河川との関わりの変化について

- 管理用道路の拡幅により田畑への乗り入れが楽になり、農作業の利便性が向上した。(自治会)
- 整備前は管理用道路も狭かったが、改修により歩くスペースも確保され、河川沿いの散策等の日常的利用が増加した。(自治会)
- 堰を管理する地域団体にいろんなイベントを開催し、生き物調査など多くの方が参加した。(自治会)

### ③ 河川の自然環境への影響について

- 魚類の生息が確認できるが、昔よりは個体数が減ったと思う。(自治会)
- 地元の青少年育成会では、武子川支川を堰止めしての魚つかみ取り等のイベントを開催している。(自治会)

### ④ その他河川に関する自由意見

- 竹や木などの樹木伐採は地元では対応が難しいので行政で対応してほしい。また、草刈りも地元の方が行っており、河川管理者の除草回数が足りていない。(自治会)
- 自治体からの助成があれば、地元で維持管理していく組織体制を整え、行動もしやすい。(自治会)
- 武子川の上流(未整備)区間についても河川改修を要望したい。(自治会)

## 5 今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性

本事業の整備に伴い、河川の氾濫防止、浸水被害の軽減等の効果が発現していることが確認できた。また、河川周辺住民のヒアリング調査から、事業の目的を達成する効果に加え、河川にふれあう機会の増加等、整備の副次的効果を確認できた。このことから、今後の事後評価の必要性はないと考えている。

一方、ヒアリング調査における意見のうち、「行政からの助成による維持管理組織の形成」や「河川管理者による堤防除草の回数の増」など維持管理面での意見については、地域住民と協議し対応していく。また、「上流（未整備）区間の改修要望」については、平成27年度から事業に着手したところであり、引き続き事業を実施していく。

## 6 同種事業への反映

本事業においては、河川断面の拡大により流下能力を向上させ浸水被害の軽減を図るとともに、沿川の土地利用の状況に配慮した整備を行った。

特に、農村部の土地利用と一体となった整備により河川利用の向上にもつながったことから、今後の同種事業の計画策定に当たっては、防災・減災のための河川整備に合わせ、営農と河川の関わりに配慮しながら良好な河川環境の保全・創出に努めるとともに、維持管理作業の効率化につながる整備手法を検討し、安全・安心な川づくり、豊かで美しい水環境の形成に役立てていく。



現在の武子川の様子（武子橋付近）

栃木県 県土整備部 河川課

TEL : 028-623-2444 FAX : 028-623-2441

HP : <https://www.pref.tochigi.lg.jp/h06/index.html>

E-mail : [kasen@pref.tochigi.lg.jp](mailto:kasen@pref.tochigi.lg.jp)

VERY  
GOOD  
LOCAL  
とちぎ